

キウイフルーツの育て方(1)

キウイフルーツは、最近我が国でも食用にされるようになった果物で、近頃では一般家庭でも栽培されるようになっています。中国中部、特に揚子江流域原産のマタビ科の植物で、中国では古くから著名な果樹とされています。

性 質

雌雄性 雌雄異株であるため結実させるには交配樹が必要です(雌6株に対し雄1株)。

耐寒性 落葉期は、 $-13^{\circ}\text{C} \sim -15^{\circ}\text{C}$ の低温にも耐えますが、晩霜で新芽が傷むことがあります。

耐乾性 夏期(7月中旬～8月下旬)の乾燥に非常に弱いので、乾かさないよう十分灌水します。

おもな品種

- | | | |
|---|---|--------------------------------------|
| 雌 | { | ヘイワード…樹勢は弱いが果実が大きい。成り始めは他の品種より約1年遅い。 |
| | | モンテー…樹勢は最も強い。晩生種で収量は多い。果実は中位の大きさ。 |
| | | ブルノー…収量は多いが果形が細長い。 |
| | | アボット…果実が小さい。 |
| 雄 | { | トムリ…ヘイワードの交配樹に良い。 |
| | | マツア…ヘイワード以外の交配樹に良い。 |

植え付け(図1)

時期 12～2月下旬。

株間 4mくらいの間隔が必要です。雌雄の株を寄せ植えにする場合、両株の幹がよじれないようにします。

棚への誘引(図2)

1～2芽を支柱に縛りつけ、巻きつかないように棚まで誘引します。2芽とも誘引できた場合はどちらか一方を摘芽し1本だけ残します(幼苗期は猫に傷められることがあるので注意する)。

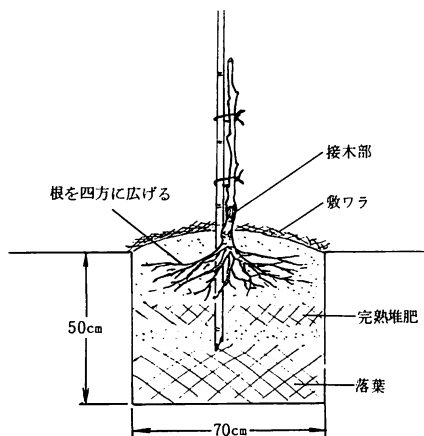


図1 植 え 方

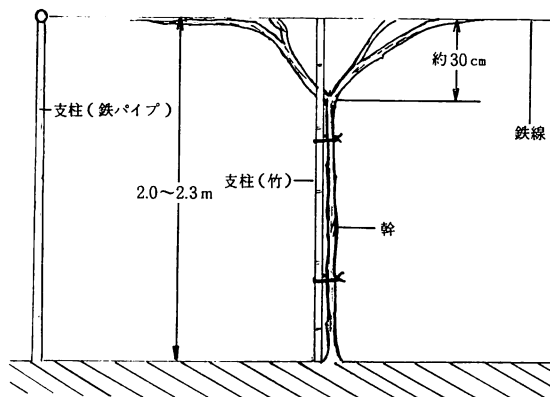


図2 誘引の方法



広島市植物公園

キウイフルーツの育て方(2)

棚作りと整枝(図1)

支柱は鉄パイプなど、耐久性のあるものが良く、整枝は、主枝が3～4本、垂主枝が主枝1本に対し3～4本になるように仕立てます。

年間管理

剪定

時期 落葉後～2月中旬。

要領 結果母枝は25～30cmの間隔で出るくらいが適当です(図2)。

施肥

11～1月下旬に、鶏糞または、油粕と骨粉を2：1の割合で混ぜたものを1本当たり3～5kg、棚下全面に散布します。その後中耕し、敷ワラを厚めにかけます。

薬剤散布

12月下旬にマシン油乳剤を適正濃度に希釈して散布します。

交配

雌雄両株がそろっていれば人工交配の必要はありませんが、交配した方が実太りが良くなります。

交配は、開花後3日以内の雄花を取り、それを雌花にこすりつけて行います。1個の雄花で約20個の雌花に受粉させることができます(図3)。

摘果

6～7月までに奇形果、変形果などを摘果し、最終的には、各結果母枝に2個くらいにします。

夏期の灌水

7月中旬～8月下旬は朝夕十分に灌水し、水切れさせないようにします。

収穫、貯蔵、追熟

11月下旬、降霜前に収穫し、その後ビニール袋などに入れて密封し、直射日光の当たらない所に置きます。温度は12℃～15℃が適当です。20日～1ヶ月くらいで追熟し、食用にできます。

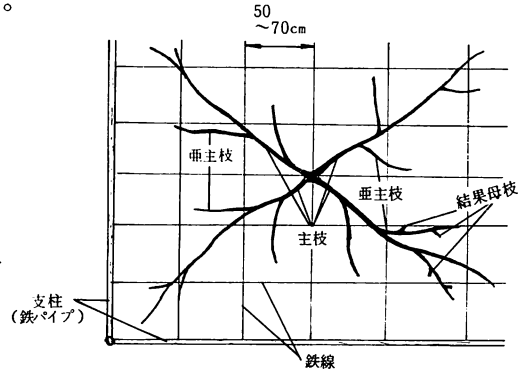


図1 整枝(主枝4本の場合)

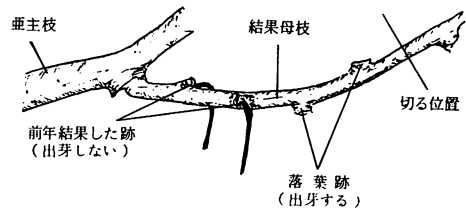


図2 整枝の方法

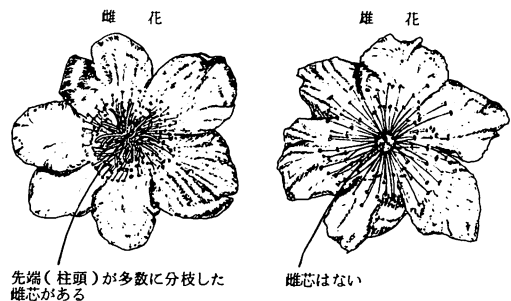


図3 キウイフルーツの雄花と雌花

